

2024年2月2日 全8頁

消費データブック（2024/2/2号）

個社データ・業界統計・JCB消費NOWから消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

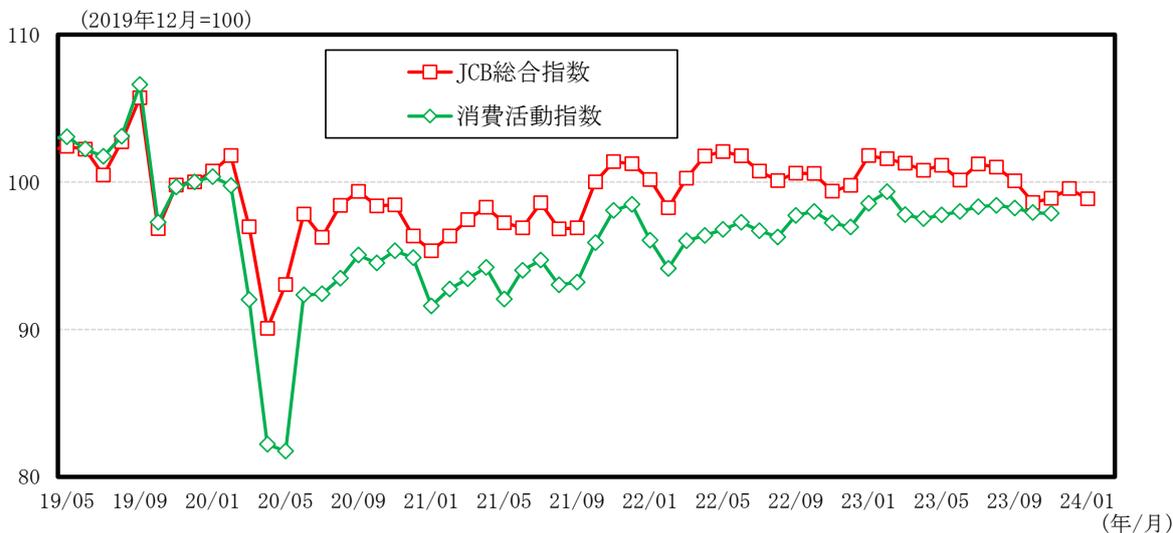
[要約]

- 2023年12月の消費は前月から概ね横ばいだった。財消費のうち、百貨店商品販売額やアパレル販売額は新型コロナウイルス感染拡大前の2019年同月比で前月から伸び率が低下した。新車販売台数は11月に続いて減少した（大和総研による季節調整値）。サービス関連のうち、宿泊者数、外食売上高では2019年同月比で11月から伸び率が高まった。
- 2024年1月の消費は2023年12月から減少したとみている。財消費のうち、百貨店大手3社の既存店売上高はまちまちな結果となった。新車販売台数は前月から大幅に減少した。サービス消費のうち、東海道と山陽、北陸新幹線の輸送量は2019年同月比で前月から伸び率が低下した。JCBが集計した宿泊消費額は12月から増加した一方、外食消費額は減少した。移動人口は、2019年同月比で2023年12月から回復した。

<消費全体の動き>

- ◆【JCB 総合指数】 24 年 1 月の JCB 総合指数¹（大和総研による季節調整値）によると、実質消費額の伸び率は前月比▲0.7%となった。サービスは前月から増加した一方、財の落ち込みが大きい。

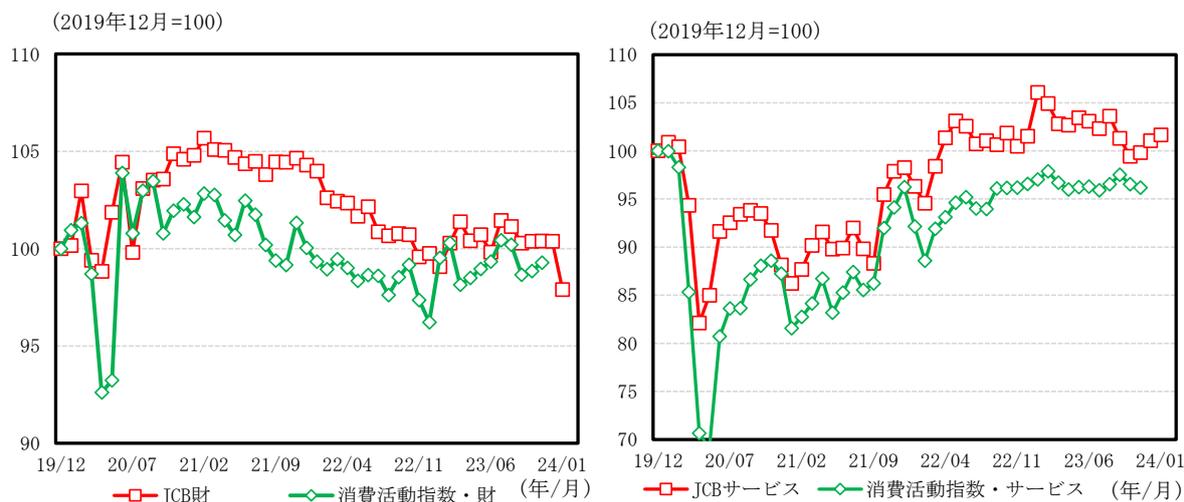
図表 1：消費活動指数・JCB 総合指数



(注) JCB 総合指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 1 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

図表 2：財・サービス別に見た消費の動き



(注 1) JCB 財指数・JCB サービス指数は大和総研による季節調整値。CPI で実質化。24 年 1 月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(注 2) 財の消費活動指数は、当該指数の耐久財・非耐久財を形態別ウエイトで加重平均したもの。

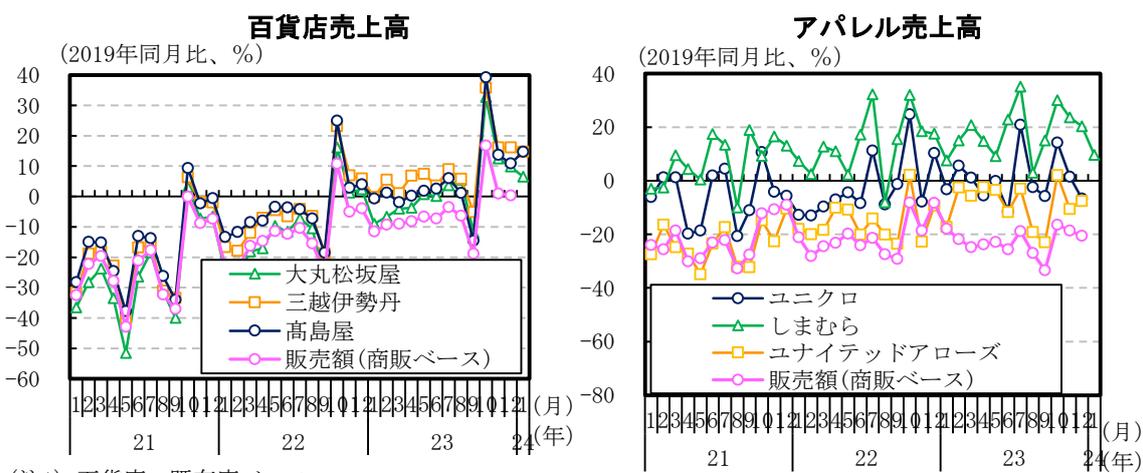
(出所) 日本銀行、総務省、株式会社ナウキャスト/JCB「JCB 消費 NOW」より大和総研作成

¹ JCB グループ会員の中からランダムに抽出された約 1,000 万会員を対象に、ナウキャスト社が作成・公表している消費指数。

<小売関連>

- ◆【百貨店】 23年12月の百貨店商品販売額は、新型コロナウイルス感染拡大前である19年同月比で前月からプラス幅が縮小。24年1月の百貨店大手3社の既存店売上高伸び率は前月からまちまちで同+7~15%程度。ハンドバッグなどの雑貨や化粧品の売上は前月に続きも好調も、後述のように冬物衣料の動きが鈍かったとみられる。
- ◆【アパレル】 23年12月のアパレル販売額（商販ベース）は19年同月比で前月からマイナス幅が拡大。24年1月のしまむらの既存店売上高は、前月からプラス幅が縮小。月中旬以降は気温が高く推移し、冬物の動きが鈍かった。

図表3：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

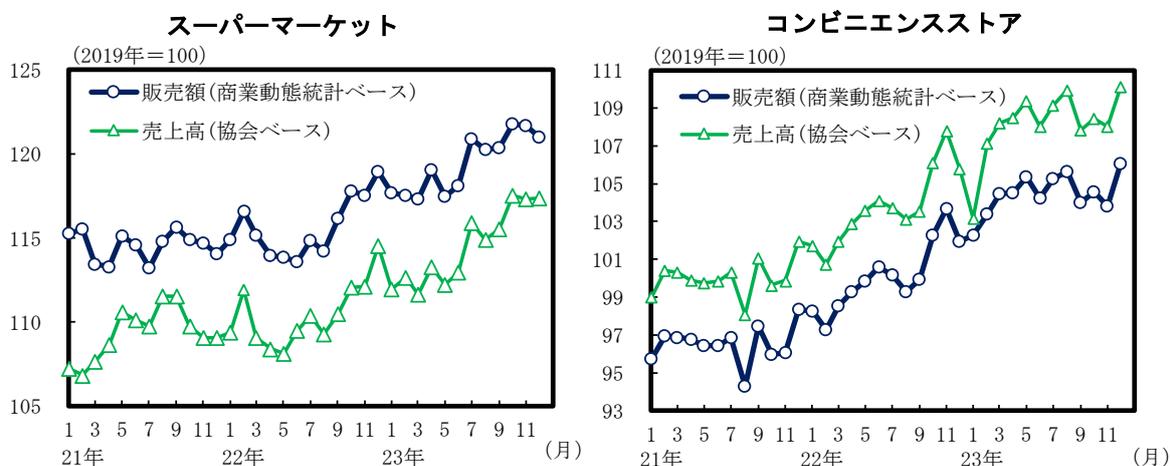
しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、20年10月以降はオンラインストア含む。

(注3) アパレル販売額(商販ベース)は、商業動態統計の「織物・衣服・身の回り品小売業」を参照。

(出所) 経済産業省統計、各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパーマーケット】 23年12月の販売額は前月比▲0.5%（大和総研による季節調整値）。衣料品を中心に販売額が減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 23年12月の販売額は前月比+2.1%（大和総研による季節調整値）。日配食品や、各種チケット等が含まれるサービスの販売額が増加。

図表4：スーパーマーケット・コンビニエンスストアの売上高

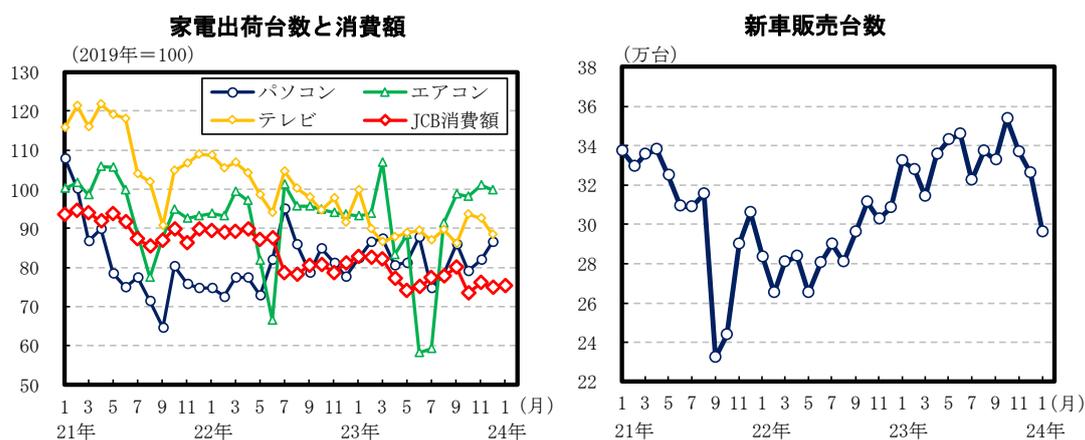


(注) 売上高（協会ベース）は既存店ベースの数値。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、全国スーパーマーケット協会、日本フランチャイズチェーン協会より大和総研作成

- ◆【家電】 23年12月の出荷台数はパソコンが前月比+5.5%、テレビは同▲4.4%、エアコンは同▲1.3%（大和総研による季節調整値）。24年1月のJCB消費額は同+0.4%と前月から小幅に増加。
- ◆【自動車】 23年12月の新車販売台数は、ダイハツ工業の工場稼働停止の影響を受けて前月比▲3.2%、24年1月は同▲9.2%と大幅な落ち込み（大和総研による季節調整値）。

図表5：家電出荷台数と新車販売台数



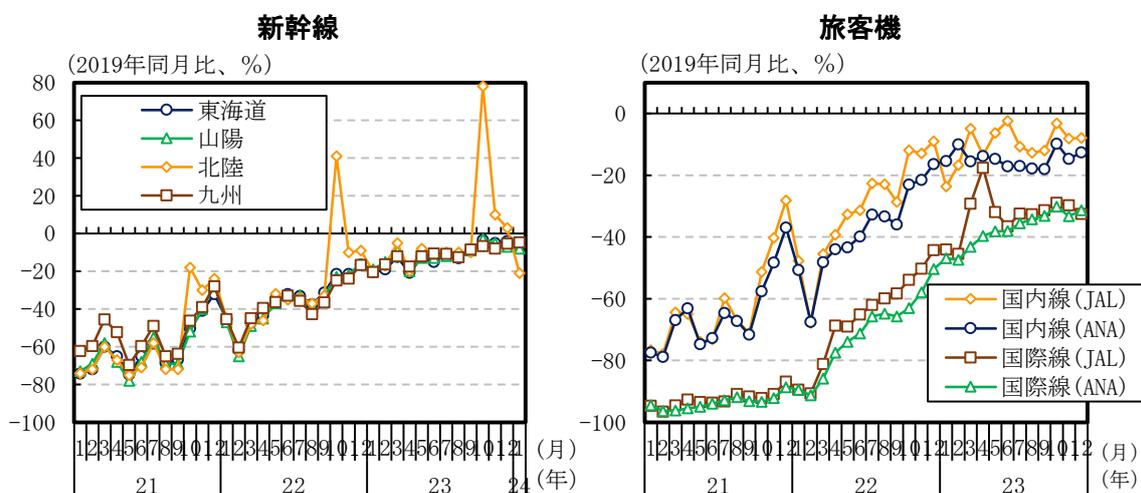
(注) 大和総研による季節調整値。JCB消費額はJCB「機械器具小売業」。24年1月分は月前半のデータをもとに伸び率を試算。

(出所) 電子情報技術産業協会、日本冷凍空調工業会、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】 23年12月の輸送量は19年同月比▲7～+3%程度。24年1月の輸送量は、九州は前月から概ね横ばい、その他ではいずれも伸び率が低下し、同▲20～▲5%程度。
- ◆【旅客機】 23年12月の国内線輸送量は19年同月比で▲13%～▲8%程度と前月からマイナス幅が縮小、国際線輸送量は同▲30%程度と前月から概ね横ばい。航空各社は好調な観光需要を受けて、24年の旅客便の供給量の拡大を発表。

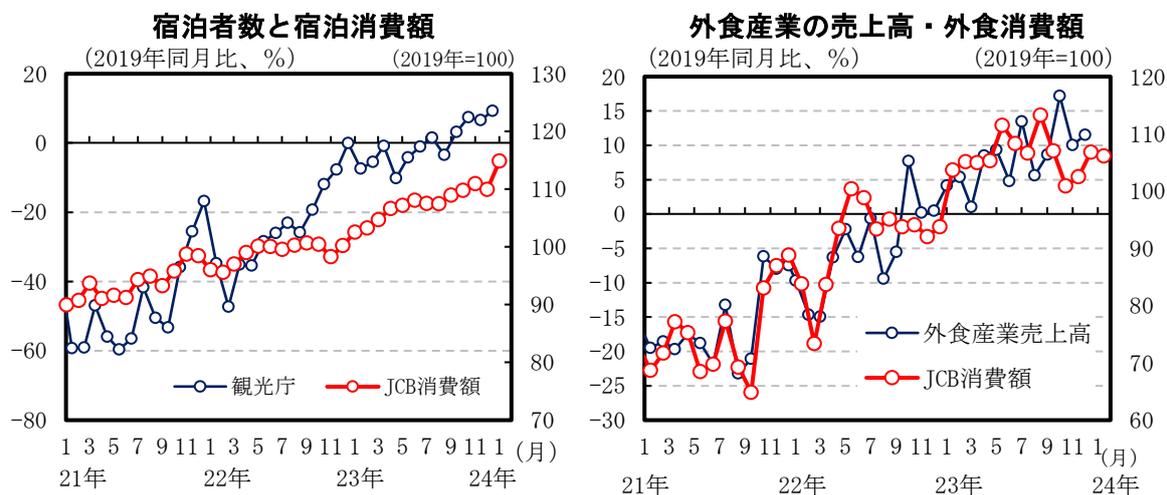
図表6：新幹線・旅客機の利用状況



(注) 24年1月の東海は29日、山陽と北陸は28日、九州は23日まで。JAL・ANAのデータはグループ会社を含む。
(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】 23年12月の宿泊者数（観光庁、宿泊日数ベース）は19年同月比+9.3%と前月から伸び率が拡大。24年1月のJCB宿泊消費額は前月比+4.5%。
- ◆【外食】 23年12月の外食産業の売上高は19年同月比+11.5%と前月から伸び率が拡大。24年1月のJCB外食消費額は前月比▲0.6%。

図表7：国内宿泊者数と関連消費額（左）、外食産業の売上高と関連消費額（右）

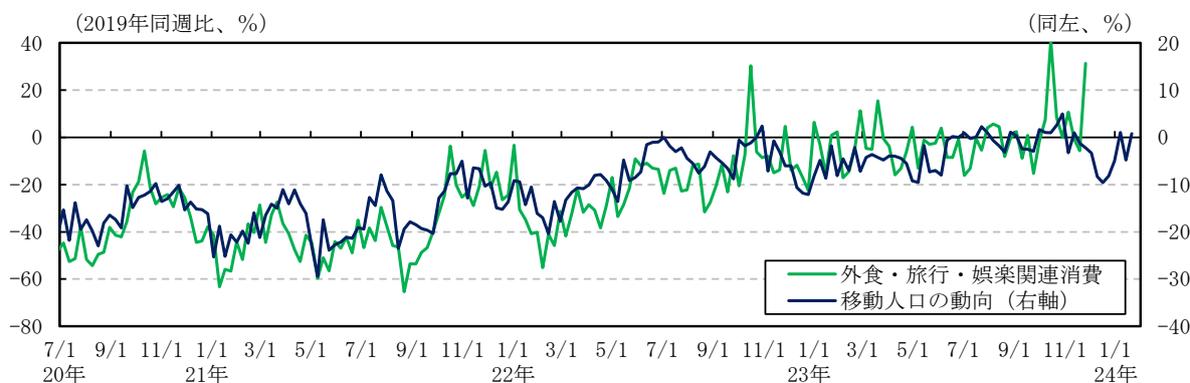


(注) 24年1月分のJCB消費額は月前半のデータをもとに伸び率を試算。観光庁統計は宿泊日数ベースのデータを用いている。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、株式会社ナウキャスト/ JCB「JCB消費NOW」より大和総研作成

<参考：移動人口の動向>

図表 8-1：外食・旅行・娯楽関連消費と移動人口の動向（直近値 2024/1/21）

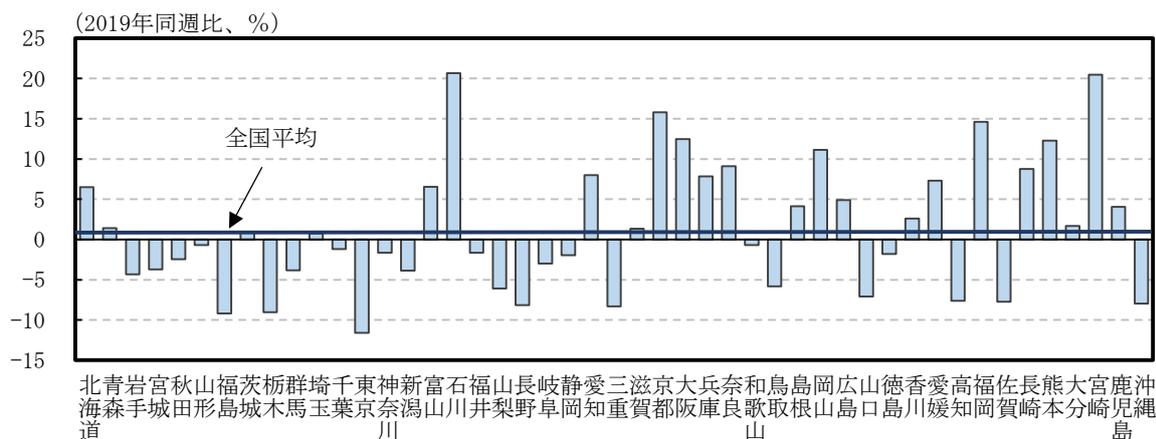


(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地が市区町村外のもの」の人口を週ごとに集計したもの。

外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

(出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

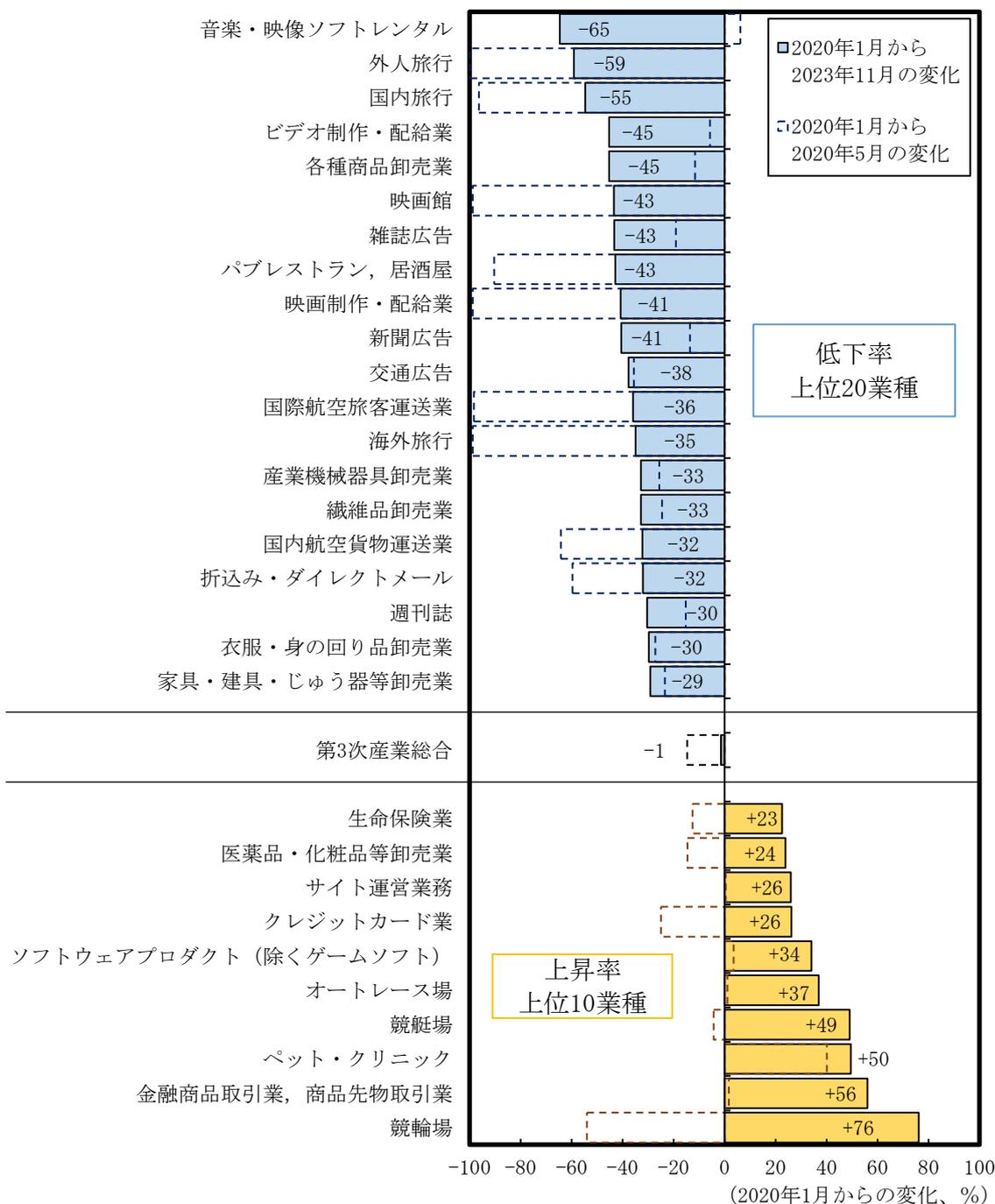
図表 8-2：移動人口の動向（2024/1/15～1/21 週、都道府県別）



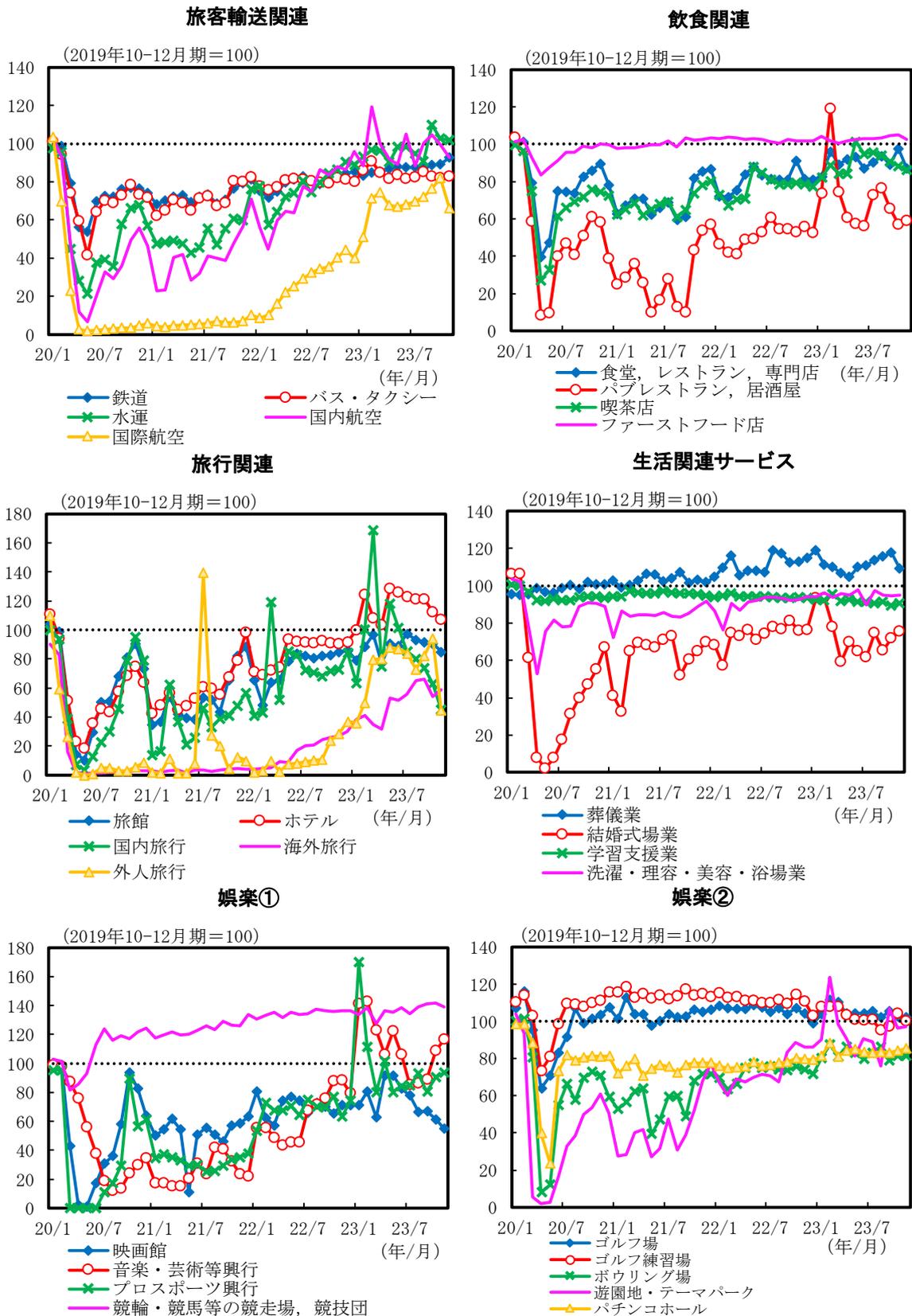
(出所) V-RESASより大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表 9-1：第3次産業活動指数（2023年11月）



図表 9-2 : 運輸業・生活関連サービス業における活動指数の推移



(出所) 経済産業省より大和総研作成